

第 25 回（令和 4 年度第 1 回）静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

- 1 日時 令和 4 年 8 月 22 日（月） 午後 2 時～午後 4 時
- 2 場所 ツインメッセ静岡 406・407 会議室
- 3 出席者 **【委員】**
鳥羽委員（会長）、山下委員（副会長）、伊藤委員、小澤委員、上妻委員、
杉山委員、鈴木委員、牧野委員、松岡委員、望月委員
【事務局】
稲葉経済局長、大村経済局次長兼商工部長
産業振興課：石川課長、浅野課長補佐兼中小企業支援係長、水野工業振興係長、
石川プラモデル振興係長、山田立地環境整備係長、五十嵐企業立地係長
新村主任主事、石川会計年度任用職員
産業政策課：水島地場産業担当課長兼地場産業係長、鈴木課長補佐兼企画係長、
頭師主査
商業労政課：降矢雇用労働政策担当課長兼課長補佐
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題 第 4 次計画の骨子案について
- 6 会議内容

（石川産業振興課長）

定刻となりましたので、第 25 回（令和 4 年度第 1 回）静岡市ものづくり産業振興審議会を開催いたします。

進行を務めます経済局商工部産業振興課長の石川と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

さて、本日は、新たな任期を迎え、最初の審議会の開催となります。委員就任にご快諾をいただいた皆様、また、市民委員に応募いただいた皆様、厚くお礼を申し上げます。

会議に先立ち、3 点お知らせいたします。

本日は、井野様、弓桁様から、所用により欠席のご連絡をいただいておりますが、その他の皆様には御出席をいただいておりますので、静岡市ものづくり産業振興条例施行規則第 6 条第 2 項、「審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない」との規定により、本日の審議会が成立していることをご報告いたします。

2 点目としては、会議の「公開」であります。静岡市では、「附属機関等の設置及び運営に関する指針」に基づきまして、ものづくり審議会を含めた附属機関の会議は、原則公開となっております。

本日の会議については、非公開事項となるものを含んでおりませんので、公開としたいと思いますが、皆様、よろしいでしょうか。

【委員了承】

ありがとうございます。それでは、公開といたします。

なお、審議の経過等によりまして、非公開とすべき事項が生じた場合には、その都度、その旨を皆様にご決定いただくこととなりますので、よろしく願いいたします。

3点目としては、会議録につきましても、公開となりますので、事務局で会議録を作成し、この後、互選によって決まる「会長」と、もう1人の委員の方にご署名をいただくこととなります。

会長以外の署名人につきましては、後ほど事務局で指名いたしますので、あらかじめ、ご了承ください。

それでは、次第2、経済局長あいさつに移りたいと思います。

(稲葉経済局長)

経済局長の稲葉でございます。まずは、この度の任期更新に伴いまして、「ものづくり産業振興審議会委員」へのご就任をご快諾いただき、皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、本日、2名の方が欠席されておられますが、前期から引き続いて就任いただく方が9名、さらに、今回、新たに委員として就任いただいた方が3名となりまして、計12名の皆様によりまして、新しく審議会がスタートいたします。

この審議会は、委員の皆様からのご意見を基に、令和5年度からスタートする第4次の基本計画を策定していくものでございます。したがって、ものづくり産業の振興の総合的かつ計画的な推進に向けて、委員の皆様の活発かつ有意義な議論をお願いしたいと思います。

以上、私からの挨拶とさせていただきます。

(石川産業振興課長)

続きまして、委嘱状を経済局長から交付いたします。鳥羽委員から順番に席を回りますので、ご起立いただきまして、お受け取りいただくようお願いいたします。

【鳥羽委員・小澤委員・杉山委員・松岡委員・伊藤委員・鈴木委員・望月委員・牧野委員・上妻委員・山下委員の順に委嘱状を交付】

本日ご欠席の委員の方には、事務局から後日お渡しいたします。

それでは、次第4の自己紹介に移ります。

まず、委員の皆様から、「お名前」と「所属」、簡単なコメントと共に1～2分程度で自己紹介をお願いします。

では、鳥羽委員から反時計回りで順をお願いいたします。

(鳥羽委員)

鳥羽俊行です。いわゆる伝統産業といわれる分野の塗りをしています。鳥羽漆芸という漆器屋の代表をしています。私で三代目、もうすぐ百年を迎えるところで、頑張っています。どうぞよろしく申し上げます。

(小澤委員)

静岡商工会議所の小澤と申します。普段は、中小企業相談所で、経営支援を主に担当しています。今、清水支所におりまして、今年の夏は大きなお祭りも開催され、いよいよウィズコロナということで事業もリスタートしてきているのを実感しています。この審議会でも、お役に立てるよう努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(杉山委員)

静岡特産工業協会の杉山恵子と申します。普段は、青葉公園でお祭りをしたり、新宿でイベントを行ったり、鳥羽さんのような伝統工芸の業界、静岡の地場産業をPRする活動をしています。審議会でも、これからも頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(松岡委員)

株式会社松岡カッター製作所の専務取締役 松岡慶子と申します。弊社は、地場産業で木工の関係、家具や鏡台など、形を作るため、省力化のための刃物を作っている会社です。静岡市内では、ほとんど数が少なくなっていますが、当時の技術を継承していて、あと十年で創業百年を迎えます。色々新しいことにも挑戦していて、元の技術を残すということでやっています。よろしくお願いいたします。

(伊藤委員)

一般社団法人 SACLABO の伊藤早紀です。私は、藤枝市蓮華寺池公園で街づくり事業を行っています。また、仕事をしながら、静岡大学に通って、経済学の研究をしているので、仕事や研究を生かしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(鈴木委員)

鈴木實と申します。よろしくお願いいたします。私は、大学の工学部を出てから20年は松下で、それから近くのデュポンでは10年、それぞれ責任者をやってきました。その後、ものづくりについては手を離れていまして、今、市民委員としては文化振興、医療振興などをやらせていただいています。ものづくりも、DXなど今は昔と違うのですが、昔との比較で色々、見せてもらって、勉強しながら、静岡市のものづくりの発展に貢献できたらと思い、応募しました。ありがとうございました。

(望月委員)

静岡県商工会連合会の望月と申します。私どもは、静岡市でいうと興津・庵原・小島の旧町村地域が管轄となる商工会のとりまとめ団体となります。中小企業の支援、主に小規模事業者の支援をしていますので、そうした支援での意見がこの審議会で反映できたらと思っています。よろしくお願いいたします。

(牧野委員)

静岡産業大学の牧野好洋と申します。私の専門は、統計を用いた経済分析です。中でも、経済波及効果、産業間の繋がり、GDP統計で、その地域でどれだけの所得が産み出されているかを専門としています。統計を使った経済分析により、静岡市のものづくり産業に少しでも寄与できればと考えています。どうぞよろしく申し上げます。

(上妻委員)

NPO法人マンパワーカフェの上妻と申します。この委員は、もう3年か4年か、かなり長くやらせていただいておりますが、マンパワーカフェでは企業を卒業したメンバーが、現場改善やコスト改善など、全てにわたっていろいろな形で、静岡市を中心とする地元の中小企業さんを支援しています。そういう面で悩みというか、何が問題なのかを、皆さんと一緒に考え、この審議会としての役割を果たしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(山下委員)

日立清水理科クラブの山下と申します。完全なボランティア団体で、月に一度、小学生向けの「ものづくり教室」を開催しており、その他、「ま・あ・る」での出張講義なども行っています。普段は子供相手ですが、上妻委員と同席して他の審議会の委員もやっており、何とか大人相手でも頑張りたいと思っております。よろしく申し上げます。

(石川産業振興課長)

ありがとうございました。続いて、委員の皆様とともに審議会に携わる市側の市職員についてご紹介いたします。

【経済局長以下職員紹介】

ありがとうございました。

それでは、次第6の正副会長の選任に移ります。

静岡市ものづくり産業振興条例施行規則第5条の規定では、会長は、審議会の会務を総理し、審議会を代表するとともに、審議会の会議の議長を担う役割、副会長は、会長を補佐する役割が定められております。また同条第1項では、委員の互選によりこれを定めると規定されておりますが、新たな任期であることも考慮し、事務局からの提案としたいと考えておりますが、皆様、いかがでしょうか。

【委員同意】

ありがとうございます。

それでは、事務局からは、会長には、伝統的地場産業である駿河漆器の製造販売に携わるとともに、静岡漆器工業協同組合の代表理事を務める鳥羽委員を、副会長には日立製作所のOBとして地域の人材育成にも携わるとともに、清水理科クラブの理事長を務める山下委員を提案したいと思っておりますが、いかがでしょうか。

【委員同意・会長、副会長の決定】

ありがとうございます。

それでは、会長を鳥羽委員、副会長を山下委員という体制で、今後の審議会を進めてまいります。では、鳥羽委員、山下委員には、会長と副会長の席に移動していただきたいと存じます。

【鳥羽委員・山下委員が会長・副会長席に移動】

ここで、鳥羽会長と山下副会長から、ご挨拶をいただきたいと存じます。

(鳥羽会長)

会長にご指名いただきました鳥羽です。どうぞよろしくお願いいたします。地場産業・伝統産業という分野で仕事をしていますが、この「ものづくり審議会」に何回か出席して、地場産業の工業出荷額が本当に微々たるものだということを知りました。数字的に伝統産業というのは、小さな産業であることを自覚させられました。ただ、文化を担っているという点では、誇りをもってやっているので、色々なことを考え、意見を述べていきたいと思いますが、私だけの立場では視点が狭くなってしまいますので、副会長はじめ、各委員の立場・立場で、それぞれのご意見やお考えを聞かせていただきたく、闊達な議論ができるような雰囲気づくりに努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

(山下副会長)

理科クラブの山下です。清水の日立工場に勤め、ものづくりには長く携わってきましたが、実は、常葉大学に逃げられた富士市に住んでいて、静岡市は恵まれた所だと思っています。この審議会でも外からの目でも見て色々提言できれば、長年、静岡で働いてきた者としての責任が果たせるのではないかと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(石川産業振興課長)

ありがとうございました。

それでは、静岡市経済局長から「静岡市ものづくり産業振興審議会」に諮問をさせていただきます。

【稲葉経済局長が鳥羽会長の席に移動し、内容を読み上げ「諮問」文を渡す。】

(鳥羽会長)

ありがとうございます。ただ今、経済局長から諮問をいただき、「第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画」の策定に向けたスタートを切ることになりました。委員の皆様におかれましては、今後、活発な議論をお願いするとともに、公的な附属機関の一員として、真摯に取り組んでくださるよう、謹んでお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

(石川産業振興課長)

それでは、ここからの議事進行は、鳥羽会長にお任せいたします。よろしくお願いいたします。

(鳥羽会長)

では、次第の7「第4次計画の骨子案」に移ります。先ほど経済局長からいただきました諮問事項に関し、事務局から説明がありましたら、お願いします。

【産業振興課水野係長が、資料に基づき、以下について説明】

- ・ 審議会の所掌事務について（資料1の1ページ、委員名簿については次第添付②）
- ・ 計画の策定・審議会開催スケジュール（資料1の7ページ）
- ・ 第3次計画の振り返り（資料1の3ページ）
 - （1） 登載事業の進捗状況について
その他、重点的に取り組む4つの事業について
 - ① IT技術の促進（商工会議所と連携した「ITなんでも相談窓口」における相談・助言等）
 - ② OB人材の活用（新現役交流会の開催等）
 - ③ 事業承継支援の強化（国・県のネットワークとの連動、商工会議所や金融機関との連携等）
 - ④ 伝統工芸技術の保全・継承（熟練職人の技術を映像などに保存するアーカイブス事業等）
 - （2） 第3次計画の目標値について
- ・ 各種データからみる製造業の動向（資料1の3ページ、ものづくり白書の詳細は資料2）
 - （1） ものづくり白書からみる社会的課題・動向、経営的課題・動向
 - （2） 市内中小製造事業者アンケート結果（2021年7月と比較した経営環境の変化、優先して取り組んでいる又は今後取り組んでみたい事項）
- ・ 第4次基本計画（骨子案）（資料1の4ページから6ページ）
 - （1） 総論（第4次計画のアウトライン、横断的な視点の追加、第3次計画からの見直しのポイント）
 - （2） ①計画の体系（構成）として2つの仮説に基づき、2つの重点テーマを設定
 - I 中小企業者の付加価値を高める「競争力・販売力の強化」
 - II 若年労働者及び次代を担う若年層に対する「ものづくり人材の強化」
 - ②仮説に基づく計画体系（案）の設定
 - I-I 「持続的な発展に向けた経営力づくり」（経営者や組織を対象とした外部知見者とのネットワーク化、資金繰りなど経営力の強化）
 - I-II 「付加価値を高める生産力づくり」（IT導入による生産性向上、産業財産権活用。設備投資、専門家派遣や相談窓口など産業支援機関によるサポート）
 - I-III 「顧客から求められる販売・営業力づくり」（展示会出展、ブランド認証、技術表彰）
 - II-I 「知識と技術をもち活かせる人づくり」（既存従業員を対象とした伝統工芸アーカイブ県立工科短大との連携）
 - II-II 「地域産業を学び支える人づくり」（「ま・あ・る」の取組やプラモデル大学・出前授業など次代を担う人材づくり）
- （3） 計画の目標及び目標値の考え方（第4次においては、「持続的な成長を続けるモノづくり創造都市 静岡」を目標（仮）とし、数値目標としては「製造品出荷額」を想定するが、それだけでなく、複数の指標を設定する予定）

(鳥羽会長)

ありがとうございました。

只今いただいた説明に関しまして、皆様それぞれの立場から、日頃感じていらっしゃることも含めて、ご意見やご質問をいただければと思いますが、どなたかありましたら挙手をお願いします。

(鈴木委員)

これを作られた時は、コロナの問題とかウクライナの問題とかは、あまり入っていなかったと思いますが、作っている間にこれらの問題が起こってきたら、計画を途中で変えた方が良いと思うことはありませんでしたか。

(鳥羽会長)

どうですか。私も聞いていて思ったのは、第3次計画ができた時は、まだコロナというものはなかったと思います。その真ただ中に第3次計画が入ってくると思いますが、その時、影響は出ていたのか、いなかったのか。そういった現象はこれから出てくるのか。いかがでしょうか。

(産業振興課水野係長)

コロナが出てきたのは、第3次計画がスタートして間もなくの頃だったと思います。見直しという点においては、見直しがしにくい計画であったということもありますが、令和2年度以降、各種補正予算を組んで、例えば、新商品の開発や展示会への出展、設備投資への補助、BCPの策定に基づくコロナ対策の支援など、スピード感をもって、喫緊の課題に対して、優先的に取り組んできました。

(稲葉経済局長)

おっしゃるとおり、前計画はコロナ以前に作ったものです。今、申しあげましたように、令和2年からコロナで大変なことになって、今は、また原材料高という状況下で、通常の施策・予算を体系立てて進めてきた中で、補正予算というイレギュラーな形で、どんな施策が中小企業の製造業の皆さんに緊急的に必要かという観点から、融資・相談・技術開発から始まって、給付金的なものまで含めて、色々な側面から、その時々に必要な施策を行ってきたというのが、この2年の状況です。第3次計画においては、コロナを直接意識しない形で進んで来ましたが、実際のところは、その時々で必要な施策を打ってきたという側面もあります。

資料1-1で、第3次と第4次の計画の対比を示しています。第3次については、一般的な、通常の経済政策の考え方のみに基づいて体系化したもので、第4次については、その後の色々な状況も踏まえて、今後の方向性を事務局で体系化したものと理解していますが、委員ご指摘のように、これでこの2年、3年の激変が捉えられているのか、また、それに対応した施策の方向性になっているのかといったところについても、ご意見としていただければ、検討の材料としたいと思います。

また、SDGsや脱炭素化、DXなどを意識していくことも述べてはいるのですが、計画の中のここに、このような表現で入れた方が良いといったことも、ひとつのご意見かと思います。コロナ以前の基本的な経済政策の根本を謳っている第3次の計画を、第4次のものにリバイスしていく上でどうしたら良いのか、全体的な所でも、細かい表現のことも結構ですので、ご意見をいただければと思います。

(鳥羽会長)

戦争もずいぶん影響がありますし、ウッドショックも起こっていて、私は記念品を作っているのですが、木が調達しにくい状況で、建設業だけでなく、将棋倒しのように小さいところまで影響が出ています。その辺の危機管理をどう落とし込むかについても、お願いしたい。ほかにどうですか。

(牧野委員)

一言、発言させていただきます。丁寧なご説明をありがとうございました。資料1の6ページ「第4次計画骨子案」の「計画の目標及び目標値の考え方」があります。いきなり目標値のことで恐縮ですが、一歩ずつ進めてきて、今後さらに良い目標値を作っていければと思います。第1次・2次計画では数値目標がありませんでした。数値が全てではありませんが、数値で捉えられることもあります。第3次計画において、初めて「製造品出荷額2兆円」という数値目標が設定されました。資料の一番下には事業ごと、さらには複数の目標を設定し、付加価値、質の向上を目指すとの説明がありました。質の向上は私も非常に重要だと考えており、これまでは、量の拡大が中心であったのに加え、今後は質の拡大、質への転換が求められていると認識しています。ただ、限られた基礎統計の中で質を捉えていくことはなかなか難しいことでありまして、例えば、「工業統計調査」においては、公表されるものは事業所数・従業者数・製造品出荷額等となります。余談ではありますが、工業統計調査は廃止され、2022年度以降は経済構造実態調査に変わるため、この第4次計画の期間中に工業統計調査の位置づけが変わってしまうことになります。こうした中で質を捉えていくには、従業者数や製造品出荷額の内訳を捉えていくのが手法としてあり得るのではないかと考えます。この審議会にあたり、事前に静岡市の工業統計調査を見て参りました。工業統計調査は4人以上の事業所を対象としていますので、従業者数の大半が常用労働者数と言えます。このうち常用労働者の内訳を、例えば、男女別でみることができます。男女比は、製造業全体で2.2：1ですが、非鉄金属製造業では7.7：1、食料品製造業では0.9：1と産業によって異なります。産業それぞれの特性があるため、男女同数が必ずしも良いとは言えませんが、こうした比率が全国平均と比べて、静岡市がどうなのかという特徴はとらえておきたい。これからのものづくりにおいては研究開発が重要になってくると考えており、さらに、人材の多様性が重要になると考えています。工業統計調査で捉えられる多様性としては男女比のみになってしまうため、ここでは性別を例に出していますが、静岡市が全国と比べ偏っている場合には、それを調整する形で人材育成を図っていくという方向もあるのではないかと考えます。

(鳥羽会長)

ありがとうございます。せっかく、今日、委員の皆様が出席されているので、どうでしょう、小澤委員の方から順に、一言ずつという形で。

(小澤委員)

コロナ禍で経営支援を行っている中で、この2年間、製造業においては、新分野の商品開発を行う、思い切って業態を転換する、販売方法を大きく変えるなどの相談がとても多かった。その流れを汲んで、商工会議所では、本年度、生産者・製造業者が直接、消費者に販売する力をつけていただく「D to C」(Direct to Consumer)に重点的に取り組んでいます。一方で、「事業承継」を含む若手の育成を、OB人材も活用しながら進めているところですので、P5の<仮説1><仮説2>の2点は非常に重要であると考えています。

(杉山委員)

伝統工芸の面から見ますと、8/6の新聞に、「伝統工芸士の増減率」が、東海4県の中で静岡県が△27.8%で最も減少率が大きいという記事が載ったとおり、生活様式の変化の中で需要が減り、成り手がなくて高齢化が進んでいるのが現状です。この第4次計画の中で、SDGsの観点からも木製品・地場産品を使ってもらおうとか、商品の付加価値を高めて需要を増やしていくことが大切で、それが後継者の増加にもつながっていくことを期待します。

(松岡委員)

この4次計画を考える上で大きな点は、DXの速度に合わせた人材をいかに作っていくかであり、NC工作機がほとんど3Dのプログラムを搭載するようになってくると、DXに対して明るい人材が多くないと、それを読み解いていけません。効率化を求めていくと、データの集積、データベースの活用、AIを使用する場合のインターフェースをどう作るか、といった点がどうしても必要となり、こうした変化に対応できる人材をどう育ててそれぞれの産業に落とし込んでいくかということが非常に重要だと考えています。

もう一点は、2050年を見据えたカーボンニュートラルについては製造業でも課題になっており、特に自動車産業においては、大手は既に目標を立てており、川上から川下に流してきています。第一段階は2018年を基準値として2023年までどこまで、次の段階ではどこまでといった形に目標が設定されていく中で、この流れに対応できない事業者は倒産してしまう可能性があります。このDX化とカーボンニュートラルは第3次計画にはなかったもので、この第4次計画では早急に対応していかなければならないと認識しています。

(伊藤委員)

第4次計画において、複数の目標値で見えていくのは、重要なことだと思います。これから企業は、製品の差別化や技術開発のため、研究開発に力を入れていくと思いますが、製造品出荷額等には研究開発費が含まれていないので、それを把握できません。研究開発費はGDPの製造業の部分に含まれているので、製造業の付加価値部分わかるGDP統計を合わせて見ていくことが大切です。GDPの指標と製造品出荷額等の差を見て、それが大きく乖離していたら、研究開発費が多く含まれていることがわかります。製造品出荷額等の動きはもちろん、GDPの動きも追えたらいいと考えます。

(鈴木委員)

「モノを創るヒトづくり」の所に、「知識と技術をもち活かせる人づくり」「地域産業を学び支える人づくり」とあり、この「人づくり」というのは、スローガンとしてはいいのですが、具体的にはどうしていくのか。先ほど、清水区にある県の工科短期大学校にもアプローチしていきたいという説明もありましたが、静岡市には製造事業者が「ここに聞いたらいい」という場所が無いように思う。私が浜松にいた時は、静大工学部によく相談に行っていました。本田宗一郎さんは、自分の会社を一旦畳んで、2～3年かけて静大工学部で基礎から学び、知識をつけてからまた、会社を始めて、それが今のホンダになっているという話をその頃、よく聞きました。静岡市内に、こうした大学などはありませんが、身近に技術を学べる所があったら、中小企業にとっていいのではないかと、思って聞いていました。

(望月委員)

コロナの影響を受けての付加価値の向上や販売力の強化について、また、コロナで従業員が急に休んでしまった時の生産計画をどうするかといったBCPについての相談等が増えていて、個別相談、専門家派遣で対応している現状ですので、＜仮説1＞＜仮説2＞の状況は、当面続くであろうと思われます。また、DXへの社内人材が不足していて取り組みにくいとか、カーボンニュートラル・SDGsについてはどこから始めていいのかわからないという相談が多く、この4次計画の中で、特出ししていただけたらと思います。

(上妻委員)

この第4次計画をどうするかを考える前段として、日本の状況をみると、なかなか生産性が上がらない、企業が投資できないということが何に起因するかというと、やはり緊縮財政があるのではと思います。それを前提に、この計画の中でまずできることは、新製品の開発だろうと思います。新しい価値を生み出す、創り出すには費用が要らないというわけではありませんが、売上を上げることより、自分自身でできるという点で、非常に重要だと思います。また、DXの導入は、企業に人材がないとできない面もあるので、何でもできる人材というより、DXに向けて最低限のことが理解できて進められるようにするなど、現状を多少でもレベルアップするための取組を考えることが大切ですので、この計画の中で、教育を行うなど、そうした方針付けができればと思います。

(山下副会長)

第4次計画の中では、やはり、ものづくり人材の強化が重点になると思います。静岡市は、人口70万人を割って、全国的にも若者の数が減っている中で、どうしたらいいか。先ほど、浜松は、大学が地元のために役立っているという話が出ました。政令市の中で工学部がないのは静岡だけということもかつて、よく聞きました。こうした中で、静岡理工科大が呉服町に来るといううれしい話もあります。県立大にも理系の先生がたくさんおられ、情報関係もあります。県立ですから、県内全般が対象ということはわかりますが、研究発表は浜松や沼津地域を対象としたものが多く、やはり地元・静岡市の面倒を重点的にみてもらいたいという思いがあります。地元のためにやりましょうよというスタンスも必要か思います。本日、「ま・あ・る」の井野委員はご欠席ですが、「ま・あ・る」も10年経って、子供たちもリーダーシップを担える大学生になって、就職を迎える時期です。しかし、果たして静岡に戻ってくるかどうか、その就職先を作れるかということもあります。教育なので時間がかかりますが、やっとPDCAのループが動き始めるかどうかの瀬戸際という所まで来ていますので、少しでもお役に立てればと思っています。

(鳥羽会長)

ありがとうございました。今、全体的に聞いてみると、3次計画から積み上げてきたもののバージョンアップが一つ。もう一つは、3次計画立案時には存在しなかったもの、カーボンニュートラルとかDX、コロナもそうだと思いますが、それらをどういうふうに4次計画に落とし込むかというあたりを考えていただきたいと思います。事務局には、よろしくお願いします。

最後になりますが、全体を通じて、各委員の中で、質問がありましたら・・・

よろしいですか。それでは、進行の方を事務局に戻したいと思います。

(大村経済局次長)

委員の皆さん、それぞれのお立場から、幅広いご意見をいただきどうもありがとうございました。今、会長の方でまとめていただきましたが、さらに検討を深めていくときに、私どもが出した仮説などの方向性は大筋で良い、これから目標を立てていくのに多様な分析があるのではないか、人づくりが非常に重要だ、といった様々なご意見をいただきましたので、これらを事務局として踏まえまして、さらにこの計画づくりを進めてまいります。これから具体的なものを出していきますので、そこでも幅広いご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(石川産業振興課長)

長時間にわたるご審議、ありがとうございました。今後も、それぞれの立場からのご意見を、随時、事務局にお寄せいただき、この計画が市民や事業者の皆さんによってより良いものとなるよう、進めてまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。それでは、最後に、委員の皆様には事務局から連絡事項がございます。

【産業振興課水野係長が、次第添付⑦に基づき、事務連絡事項を説明】

以上をもちまして、第 25 回（令和 4 年度第 1 回）静岡市ものづくり産業振興審議会を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。

署名人

会長

委員
